

入門マクロ経済学Ⅰ

科目ナンバリング ECT-103
選択必修 2単位

富田 秀昭

1. 授業の概要(ねらい)

新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、皆さんは日々たくさんの経済関連ニュースを目にしていることでしょう。この授業では、一国経済全体に関わる事象を対象とするマクロ経済学について、各経済主体の果たす役割を考慮しつつ、その考え方の基礎を学ぶことを目的とします。

「入門マクロ経済学Ⅰ」においては、一国の経済規模を測るGDPの諸概念および主要な支出項目の決定理論、マクロ経済における資金の流れを取り上げた後、一国経済の需要面に着目するIS-LM分析と財政金融政策の効果について学びます。

2. 授業の到達目標

- ① GDPに関わる基本的な概念について修得する。(知識・理解)
- ② 家計、企業、政府等の経済主体が担う消費、投資などに関する主要な決定理論、マクロ経済における資金の流れと金融の役割について説明できる。(汎用的技能)
- ③ 一国経済の需要面に着目するIS-LM分析について理解し、需要を喚起するための財政金融政策とその効果について説明できるようになる。(汎用的技能)

3. 成績評価の方法および基準

- (1)小テスト(到達目標①、②、③) 40%(重要な概念や用語の理解を問うもので、計4回、不定期に実施)
 - (2)期末試験(到達目標①、②、③) 60%(全範囲を対象として理解度を問うもので、最終授業時に実施)
- ・小テストの講評、解説については、次の授業時間内で実施します。

4. 教科書・参考文献

教科書

福田慎一・照山博司 『マクロ経済学・入門(第5版)』 有斐閣、2016年

5. 準備学修の内容

- (1)事前に教科書の関連部分を熟読し、疑問点などをチェックして授業に臨んでください。
- (2)原則として授業内容の要点を記載したレジュメを毎回配付するほか、必要に応じて配付する資料に基づいて、入門レベルのマクロ経済学に必要な論理的な考え方を丁寧に解説することを心掛けるつもりです。帰宅してから、その日の授業で学修した内容を見直すなど、復習に重点を置いて取り組んでください。
- (3)配付するレジュメは空欄穴埋め方式とするので、授業を聴きながら該当箇所に用語を記入していくこと(レジュメの完成版は次の回の授業で配付します)。

6. その他履修上の注意事項

- (1)入門レベルのマクロ経済学を体系立てて理解するため、「入門マクロ経済学Ⅱ」の連続履修を希望します。
- (2)授業中の私語など、他の受講者に迷惑を掛ける行為があった場合には、成績評価に際して大幅減点、あるいは不合格とすることがあります。

7. 授業内容

- 【第1回】 <ガイダンス>
授業目的、授業方法、成績評価、準備学修および授業内容について
- 【第2回】 <講義> GDPとは何だろうか?(1):GDPに関する諸概念
- 【第3回】 <講義> GDPとは何だろうか?(2):日本における景気変動
- 【第4回】 <講義> 消費と貯蓄はどのようにして決まるか?:消費と貯蓄の理論
- 【第5回】 <講義> 設備投資と在庫投資(1):設備投資とは?
- 【第6回】 <講義> 設備投資と在庫投資(2):主要な投資理論
- 【第7回】 <講義> 金融と株価(1):マクロ経済における資金の流れ、株価の決定
- 【第8回】 <講義> 金融と株価(2):投資理論と金融の役割
- 【第9回】 <講義>(オンライン授業) 貨幣の需要と供給(1):貨幣の役割
- 【第10回】 <講義> 貨幣の需要と供給(2):貨幣需要
- 【第11回】 <講義> 貨幣の需要と供給(3):貨幣供給、利子率のコントロール
- 【第12回】 <講義> 貨幣乗数とIS-LM分析(1):有効需要の原理
- 【第13回】 <講義> 貨幣乗数とIS-LM分析(2):乗数理論、IS曲線
- 【第14回】 <講義> 貨幣乗数とIS-LM分析(3):LM曲線、IS-LM分析
- 【第15回】 <まとめ>
1)授業の総括
2)期末試験